

# 調査・設計業務における総合評価落札方式の実施状況について

国土技術政策総合研究所 正会員 笹田 俊治  
 国土技術政策総合研究所 正会員 服部 司  
 国土技術政策総合研究所 正会員 ○大橋 幸子

## 1. はじめに

国土交通省においては、調査・設計業務の品質確保を図るため、平成 19 年度から総合評価落札方式による調達を試行的に開始し、新たに策定した「建設コンサルタント業務等におけるプロポーザル方式及び総合評価落札方式の運用ガイドライン」に基づいて平成 20 年度に本格的に運用を開始した。国土交通省国土技術政策総合研究所では、総合評価落札方式の普及・拡大、ダンピング防止策、入札契約制度に関する諸課題への確実な対応に資することを目的として、総合評価落札方式の実施状況について継続的に分析を行っている。平成 20 年度に総合評価落札方式により調達された業務については、これまで随時分析を行い報告してきたところであるが、最終的に実施状況を分析し課題をとりまとめたので、その内容について報告する。

## 2. 実施状況

### (1) 対象業務

対象は、土木、測量、地質調査の 3 業種のうち、平成 20 年度に各地方整備局と北海道開発局において総合評価落札方式により調達を行った業務（空港・港湾除く）全 374 件とする。

### (2) 落札率の分布状況

対象業務の落札率の分布状況を取りまとめた。平均落札率は、78.3%で、70~80%と 90%後半にピークが見られた。

これらの分布状況を、価格競争入札方式による業務と比較した(図-1)。比較した価格競争入札方式の業務は、平成 20 年度に価格競争(簡易公募・公募型)により調達した予定価格 1,000 万円以上の業務である。平均落札

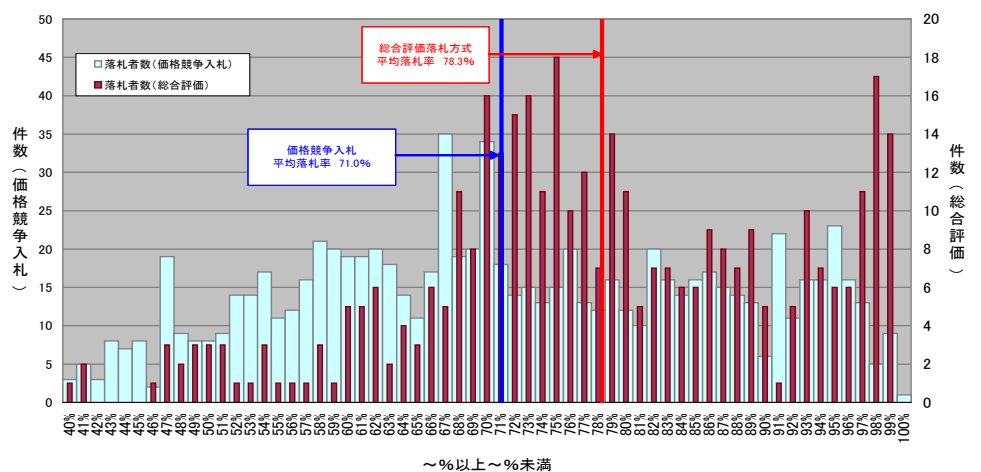


図-1 落札率の分布状況

率は、価格競争入札方式に比べて総合評価落札方式が 7.3 ポイント高い結果となった。一方で、落札率が概ね 70%未満の低入札業務は、価格競争入札方式と比較して少ないものの、総合評価落札方式でも少なからず発生している状況にあることがわかった。

### (3) 落札者の技術点と価格点の状況

対象業務の落札者の技術点と価格点の順位の状況を取りまとめた(図-2)。落札者が技術点、価格点とも 1 位であった業務は全体の 36.6%であり、最も高い割合を示した。技術点、価格点別にみると、価格点の順位が 1 位であった業務は 186 件、49.7%であった。技術点の順位が 1 位であった業務は 292 件、78.1%であった。図-3

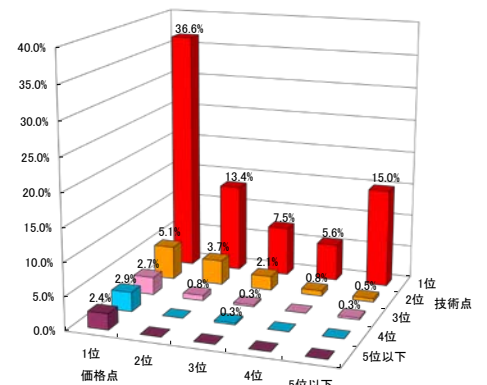


図-2 落札者の技術点と価格点の状況

に、落札者の技術点順位を示す。落札者の技術点順位が 1 位または 2 位であった業務は、全体の 9 割を占めていた。これらのことから、価格点による競争よりも技術点による競争が優位であったといえる。

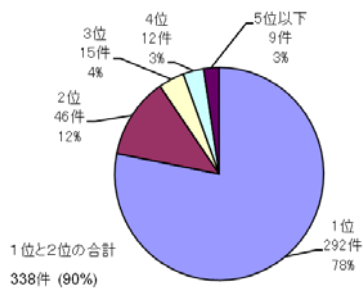


図-3 落札者の技術点順位

(4) 技術点の競争状況

応募者全体のうち、技術点と価格点を合わせた総合評価値が1位、2位、3位であった応募者について、技術点の分布をとりまとめた(図-4)。総合評価値が1位であった応募者(落札者)の技術点の平均は60点満点中47.9点であった。総合評価値が2位、3位であった応募者の技術点の平均はそれぞれ44.3点、42.8点であった。総合評価値が上位の3者は、平均で見ると42.8点から47.9点の間にとどまり、60点満点の技術点のうちの1割程度の範囲の中で競争が行われている状況にあった。

(5) 業務成績との関係

平成20年度に総合評価落札方式により調達された業務の成績評定データが十分得られたことから、他の調達方式や配点比率別の業務成績の比較が可能になった。

調達方式別の成績評定得点率と、対象業務の価格点・技術点の比率別成績評定得点率をとりまとめた(図-5)。なお、成績評定得点率は、100点満点の中で基礎点の65点を差し引いた残り35点の中での得点割合((評定点-65)/35(%))により示す。また、総合評価の成績評定得点率は、対象業務のうち成績評定データと照合できた337件についての値である。

調達方式別の成績評定得点率では、プロポーザル方式による業務の平均は30.0%、総合評価落札方式による業務の平均は27.1%、価格競争入札方式による業務の平均は25.4%であり、総合評価落札方式による成績評定得点率の平均は、価格競争入札方式によるそれよりも1.7ポイント高い業務評定得点率となっていた。これは、業務成績評定点にすると、0.6点相当の差となる。

また、総合評価落札方式による業務の価格点・技術点の比率別成績評定得点率では、価格点と技術点が1:1の業務の平均は26.2%、1:2の業務の平均は27.7%、1:3の業務の平均は27.9%であり、技術点の比率が高いものほど成績評定得点率は高くなっている。1:3の業務の平均は、1:1の業務の平均よりも1.7ポイント高い業務評定得点率となっていた。これは、業務成績評定点にすると0.6点相当の差となる。

3. まとめ

本稿では、調査・設計業務において総合評価落札方式が本格的に導入された平成20年度の実施状況について分析し、比較検討した。その結果、制度の導入により本来の目的である業務の品質の向上が確認できたものの、一方で少なからず低入札が発生しており、品質確保の観点から早急な対策が必要であることがわかった。

今後の総合評価落札方式のさらなる改善に向けて、本稿で報告した平成20年度の実施状況等をもとに検討を重ねていく予定である。

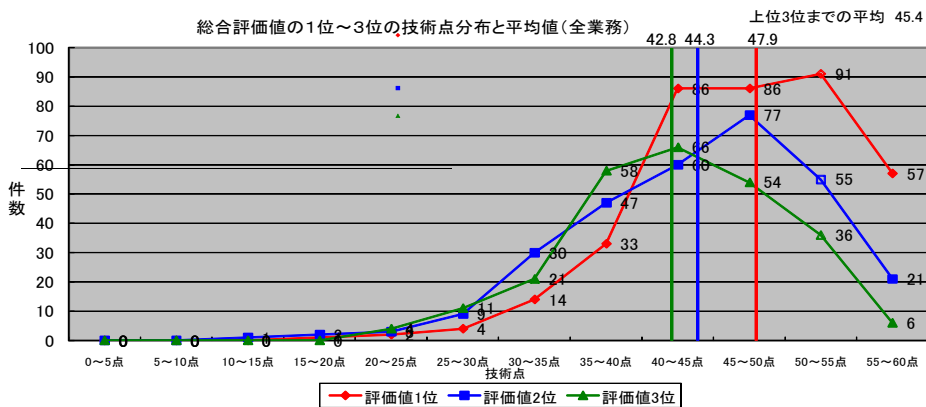


図-4 技術点の競争状況

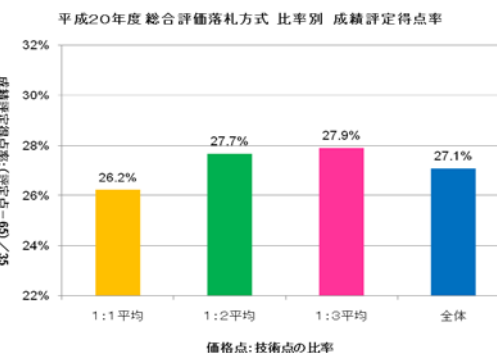
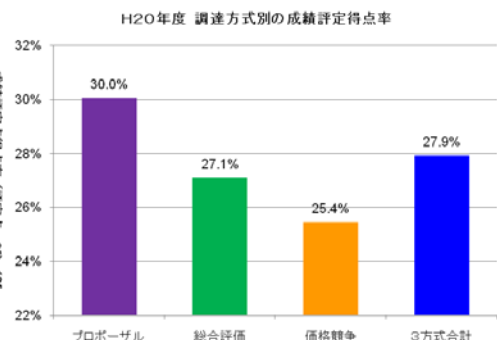


図-5 成績評定得点率

キーワード 入札・契約、総合評価落札方式、年次報告、技術力評価

連絡先 〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地 TEL029-864-7462